

※※2019年12月改訂 2
2019年 8月作成 1

日本標準商品分類番号
8 7 2 3 9 1

選択的NK₁受容体拮抗型制吐剤

アプレピタントカプセル80mg「NK」
アプレピタントカプセル125mg「NK」
アプレピタントカプセルセット「NK」

Aprepitant Capsules 80mg・125mg・Set「NK」

アプレピタントカプセル

〈規制区分〉
処方箋医薬品*
〈貯法〉
室温保存
〈使用期限〉
3年（外箱に表示）
〈取扱い上の注意〉
【取扱い上の注意】の項参照

承認番号	80mg	30100AMX00180
	125mg	30100AMX00181
	セット	30100AMX00182
※※ 薬価収載	2019年12月	
※※ 販売開始	2019年12月	

*注意-医師等の処方箋により使用すること

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

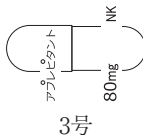
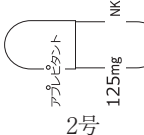
- 本剤の成分又はホスアプレピタントメグルミンに対し過敏症の既往歴のある患者
- ピモジド投与中の患者（「3. 相互作用」の項参照）

【組成・性状】

1. 組成

販売名	アプレピタントカプセル 80mg「NK」	アプレピタントカプセル 125mg「NK」
	アプレピタントカプセルセット「NK」	
成分・含量 (1カプセル中)	アプレピタント	
	80.0mg	125.0mg
添加剤	カプセル 内容物	結晶セルロース、白糖、ヒドロキシプロピルセルロース、ラウリル硫酸Na
	カプセル 本体	酸化チタン、ゼラチン、ラウリル硫酸Na - 三二酸化鉄

2. 性状

販売名	アプレピタントカプセル 80mg「NK」	アプレピタントカプセル 125mg「NK」
	アプレピタントカプセルセット「NK」	
外形		
剤形	硬カプセル剤	
性状	頭部：白色不透明 胴部：白色不透明 内容物：白色～灰白色の顆粒又は粉末	頭部：淡赤色不透明 胴部：白色不透明 内容物：白色～灰白色の顆粒又は粉末
全長 (mm)	15.8	17.8
質量 (mg)	約225	約338

【効能・効果】

抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）（遅発期を含む）

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

本剤は強い悪心、嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）の投与の場合に限り使用すること。

【用法・用量】

他の制吐剤との併用において、通常、成人及び12歳以上の小児にはアプレピタントとして抗悪性腫瘍剤投与1日目は125mgを、2日目以降は80mgを1日1回、経口投与する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

- がん化学療法の各コースにおいて、本剤の投与期間は3日間を目安とすること。また、成人では5日間を超えて、12歳以上の小児では3日間を超えて本剤を投与した際の有効性及び安全性は確立していない。
- 本剤は、原則としてコルチコステロイド及び5-HT₃受容体拮抗型制吐剤と併用して使用すること。なお、併用するコルチコステロイド及び5-HT₃受容体拮抗型制吐剤の用法・用量については、各々の薬剤の添付文書等、最新の情報を参考にし、投与すること。ただし、コルチコステロイドの用量については、本剤とコルチコステロイドの薬物相互作用を考慮して適宜減量すること。（「3. 相互作用」の項参照）
- 本剤は、抗悪性腫瘍剤の投与1時間～1時間30分前に投与し、2日目以降は午前中に投与すること。

【使用上の注意】

- 慎重投与**（次の患者には慎重に投与すること）
重度の肝障害患者
〔主として肝で代謝されるため、血中濃度が過度に上昇するおそれがある。また、重度肝機能不全（Child-Pughスコア>9）患者での使用経験はない。〕
- 重要な基本的注意**
 - 本剤はCYP3A4に対する用量依存的阻害作用を有し、抗悪性腫瘍剤を含めて併用薬剤と相互作用を起こすことがあるため、十分注意して投与すること。（「3. 相互作用」の項参照）
 - 長期ワルファリン療法を施行している患者には、がん化学療法の各コースにおける本剤処方開始から2週間、特に7日目から10日目には、患者の血液凝固状態に関して綿密なモニタリングを行うこと。（「3. 相互作用」の項参照）
 - 潮紅、紅斑、呼吸困難、意識消失、血圧低下等のショック、アナフィラキシーを起こすことがあるため、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。（「禁忌」及び「4. (1) 重大な副作用」の項参照）
- 相互作用**
本剤はCYP3A4の基質であり、軽度から中程度のCYP3A4阻害（用量依存的）及び誘導作用を有し、CYP2C9の誘導作用も有する。

(1) 併用禁忌 (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ピモジド (オーラップ)	左記薬剤の血中濃度上昇により、QT延長、心室性不整脈等の重篤な副作用を起こすおそれがある。	本剤の用量依存的なCYP3A4阻害作用によって、左記薬剤の血中濃度上昇を来すことがあり、重篤又は生命を脅かす事象の原因となるおそれがある。

(2) 併用注意 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
CYP3A4を阻害する薬剤 イトラコナゾール エリスロマイシン クラリスロマイシン リトナビル 等	本剤と強力なCYP3A4阻害剤 (例: ケトコナゾール) との併用は慎重に行うこと。	本剤はCYP3A4の基質であるため、CYP3A4活性を阻害する薬剤と併用することによって本剤の血中濃度が上昇する可能性がある。
ジルチアゼム	本剤とジルチアゼムとの併用投与によって、両薬剤への曝露が増大する可能性がある。	本剤及びジルチアゼムの代謝が競合的に阻害される。
CYP3A4を誘導する薬剤 リファンピシン カルバマゼピン フェニトイン 等	本剤の作用が減弱するおそれがある。	本剤はCYP3A4の基質であるため、これらの薬剤により本剤の代謝が促進される場合がある。
CYP3A4で代謝される薬剤 デキサメタゾン メチルプレドニゾン ミダゾラム 等	これらの薬剤の効果が増強されるおそれがある。なお、デキサメタゾンと併用する場合は、デキサメタゾンの用量を減量するなど用量に注意すること。	本剤の用量依存的なCYP3A4阻害作用によって、これらの薬剤の代謝が阻害される場合がある。なお、その影響は静注剤よりも経口剤の方が大きい。
CYP2C9で代謝される薬剤 ワルファリン トルブタミド フェニトイン 等	これらの薬剤の効果が減弱されるおそれがある。	本剤のCYP2C9誘導作用により、これらの薬剤の代謝が促進される場合がある。
ホルモン避妊法 エチニルエストラジオール 等	これらの薬剤の効果が減弱されるおそれがあるため、本剤の投与期間中及び最終投与から1ヵ月間は、代りの避妊法又は補助的避妊法を用いる必要がある。	機序は解明されていないが、本剤との併用によりこれらの薬剤の代謝が亢進することが報告されている。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用 (頻度不明)

- 皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群): 皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群) があらわれることがあるので、観察を十分に行い、発熱、紅斑、痒痒感、眼充血、口内炎等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 穿孔性十二指腸潰瘍: 穿孔性十二指腸潰瘍があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
- ショック、アナフィラキシー: ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、全身発疹、潮紅、血管浮腫、紅斑、呼吸困難、意識消失、血圧低下等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。〔禁忌〕及び「2. 重要な基本的注意」の項参照)

(2) その他の副作用

以下の副作用があらわれた場合には、投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

	頻度不明
皮膚	光線過敏症、多汗症、脂性肌、皮膚病変、蕁麻疹、ざ瘡、発疹、痒痒
精神神経系	失見当識、多幸症、不安、異常な夢、認知障害、頭痛、眠気、不眠症、めまい
循環器	徐脈、頻脈、不整脈、動悸、潮紅、ほてり
消化器	おくび、鼓腸、胃炎、腸炎、口内乾燥、便秘、食欲不振、下痢、悪心、嘔吐、消化不良、腹痛、腹部不快感、胃食道逆流性疾患、口内炎、腹部膨満
呼吸器	咽頭炎、後鼻漏、咳嗽、しゃっくり、くしゃみ、咽喉刺激感
肝臓	AST (GOT)、ALT (GPT)、アルカリホスファターゼ、 γ -GTP、ビリルビンの上昇
腎臓	排尿困難、頻尿、多尿、血尿、蛋白尿、BUN上昇、尿糖、クレアチニン上昇
血液	貧血、好中球数減少、白血球数減少、血小板数減少、リンパ球数減少、単球数減少
筋骨格系	筋痙攣、筋痛、四肢痛
その他	無力症、胸部不快感、嗜眠、耳鳴、疼痛、粘膜の炎症、脱水、多飲症、カンジダ症、ブドウ球菌感染症、結膜炎、疲労、倦怠感、味覚異常、発熱、浮腫、高血糖、体重増加、体重減少、口渇、アルブミン減少、低カリウム血症、低ナトリウム血症、低クロール血症

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので慎重に投与すること。なお、健康な高齢者は血漿中濃度 (AUC、Cmax) が非高齢者に比べて若干高くなるとの報告がある。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。なお、ラット、ウサギにおいて胎盤を通過することが報告されている。〕
- 授乳中の婦人には、本剤投与中は授乳を中止させること。
〔ラットにおいて乳汁中に移行することが報告されている。〕

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は12歳未満の小児に対する有効性及び安全性は確立していない（12歳未満の小児等に対する使用経験がない）。

8. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

9. その他の注意

- ラットの2年間投与がん原性試験において、雌雄ラットの125mg/kg 1日2回投与群以上で甲状腺濾胞細胞腺腫の発生率の増加、雄ラットの125mg/kg 1日2回投与群以上で甲状腺濾胞細胞腺腫の発生率の増加、雄ラットの125mg/kg 1日2回投与群及び雌ラットの5mg/kg 1日2回投与群以上で肝細胞腺腫の発生率の増加、雌ラットの125mg/kg 1日2回投与群以上で肝細胞癌の発生率の増加が認められたとの報告がある。
また、マウスの2年間投与がん原性試験において、雌マウスの500mg/kg/日群以上で肝細胞腺腫の発生率の増加、雄マウスの1,000mg/kg/日群以上及び雌マウスの500mg/kg/日群以上で肝細胞癌の発生率の増加が認められたとの報告がある。
- 新生児の雌雄ラットに7週間反復経口投与したところ、10mg/kg 1日2回投与群以上で包皮分離の遅延及び陰開口の早期化が認められたが、これら動物の生殖行動、受胎能力、妊娠機能、生殖器の病理学的検査において変化はなく、生殖能への影響はなかったとの報告がある。
また、本剤の水溶性を向上させたリン酸化プロドラッグであるホスアプレピタントを新生児の雌雄イヌに4週間反復静脈内投与したところ、4mg/kg投与群以上で子宮重量の高値を伴う子宮角から体部にかけての内膜及び筋層の肥厚、子宮頸部筋層の肥厚、陰粘膜固有層及び粘膜下層の浮腫、体重増加抑制、6mg/kg投与群で精巣重量の低値を伴うライディヒ細胞の小型化、体重増加抑制が認められたが、組織構造の破壊を伴うものではなかったとの報告がある。

【薬物動態】

生物学的同等性試験

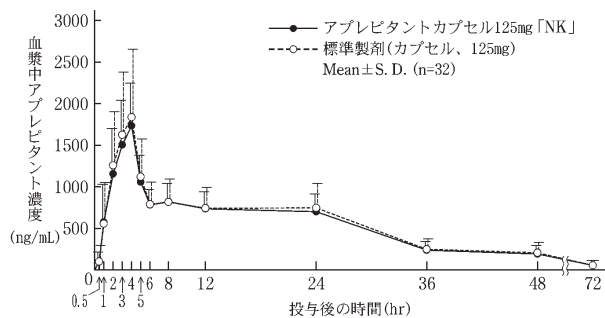
アプレピタントカプセル125mg「NK」と標準製剤を健康成人男子にそれぞれ1カプセル（アプレピタントとして125mg）空腹時単回経口投与（クロスオーバー法）し、血漿中アプレピタント濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)～log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。¹⁾

なお、アプレピタントカプセル80mg「NK」は、容れ目違いであるアプレピタントカプセル125mg「NK」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、製剤間に差がないことが確認された。

各製剤1カプセル投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)	AUC _{0-72hr} (ng・hr/mL)
アプレピタントカプセル125mg「NK」	1758±507	3.8±0.6	14.1±5.9	30807±9154
標準製剤 (カプセル、125mg)	1895±827	3.6±0.7	13.9±4.8	32128±12090

(Mean±S.D.)



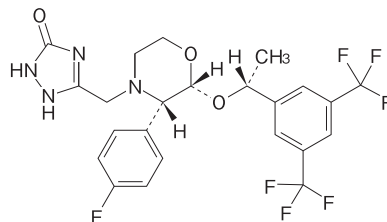
血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の条件によって異なる可能性がある。

【薬効薬理】

アプレピタントはニューロキニン1（NK₁）受容体拮抗薬である。サブスタンスPの受容体に対する拮抗作用があり、抗癌性腫瘍薬による急性及び遅発性悪心、嘔吐を抑制する。²⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アプレピタント（Aprepitant）
 化学名：5-[[[2R,3S)-2-[(1R)-1-[3,5-Bis(trifluoromethyl)-phenyl]ethoxy]-3-(4-fluorophenyl)morpholin-4-yl]methyl]-1,2-dihydro-3H-1,2,4-triazol-3-one
 分子式：C₂₃H₂₁F₇N₃O₃
 分子量：534.43
 構造式：



性状：白色～灰白色の結晶性の粉末である。酢酸（100）に溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール（99.5）にやや溶けにくく、水に極めて溶けにくい。

【取扱い上の注意】

安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヵ月）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。³⁾

【包装】

アプレピタントカプセル80mg「NK」：
 6カプセル（2Cap×3）、20カプセル（2Cap×10）
 アプレピタントカプセル125mg「NK」：
 6カプセル（2Cap×3）
 アプレピタントカプセルセット「NK」：
 （125mgカプセル×1、80mgカプセル×2）/シート×1

【主要文献及び文献請求先】

〈主要文献〉

- 日本化薬株式会社 社内資料：生物学的同等性試験
- 田中千賀子他編：NEW薬理学，改訂第7版，南江堂，484（2017）
- 日本化薬株式会社 社内資料：安定性試験

〈文献請求先〉

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

日本化薬株式会社 医薬品情報センター
(住所) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
(TEL) 0120-505-282 (フリーダイヤル)